

## 広島県の経済情勢と今後の注目点

日本銀行広島支店長

井上 広隆



日本銀行広島支店では、概ね

毎月、県内の経済情勢を取りまとめているほか、支店長が記者会見を行っています。また、三か月に一回、企業に景況感等をお伺いする日銀短観を実施するとともに、中国地方全体の景気判断を行っています。そうした経済調査の結果は支店長会議での報告などを通じて金融政策の運営に役立てられています。この場を借りまして、日銀の経済調査にご協力いただいている皆様に改めて厚く御礼を申し上げます。

本稿では、県経済の現状と今

後の注目点について述べます。

直近（八月三日公表分）では、広島県経済の現状判断を「緩やかに持ち直している」としました。七月までは、「下押し圧力は残るものの、緩やかに持ち直している」としておりましたので、「下押し圧力」に関する言及を落とした分だけ判断を上方修正したことになります。

ここで、時に分かりにくいと言われる景気判断の表現について補足します。日銀では、景気が最も悪化した局面から徐々に水準を切り上げていく過程で、「持ち直し」↓「回復」↓「拡大」

と表現を使い分けています。こ

の点、現在の「緩やかに持ち直している」という判断は、景気はコロナ後の最悪期を脱したとはいえず水準としてはまだ高いことを示しています。

県内景気の先行きについては、「徐々に改善に向かうことが期待されるが、感染症や供給制約などが県内の経済金融情勢に与える影響を引き続き注視していく必要がある」と評価しています。実際、七月後半以降におけるコロナ感染者数の急増が今後の当地経済にどのような影響を及ぼすかについては十分な

留意が必要です。

さて、以下では、県経済を語るうえで特に重要な「個人消費」と「輸出・生産」についてやや詳しく説明します。

まず、個人消費については、全体として持ち直しつつあります。三年ぶりに行動制約を受けずに消費活動ができるようになったことで、これまで抑えられていた需要が一気に実現している姿が見てとれます。最近では感染者数が再び増加していますが、今のところ人出は持ち直し基調が続いているようです。例えば、小売や娯楽関係の人出

の状況について、 구글が公表している流動人口のデータでも、底堅い姿は大きくは変わっていません。

このような人出の増加は小売の業種ごとに様々な影響を与えています。例えば、百貨店では

レストランやお土産品が好調であるほか、美術品や宝飾品といった高額商品も売れています。一方、食品スーパーなどでは内食需要、すなわち家で食べる需要の減少に加え、食品価格の上昇に伴う買い控えもみられるなど、生活防衛意識の高まりによる売り上げ減を指摘する向きもあります。ただ、小売を全体としてみるとプラス方向の動きが勝っているように見受けられます。

また、行動制約を受けない夏休みを迎え、国内旅行需要が盛

り上がっているほか、県内の主要観光地への入り込み客も持ち直しています。この点、七月末まで適用されていた県民割が下支えになったとの声も多く聞かれています。

ただし、このような前向きな動きがみられる一方で、感染者数の増加がじわじわと影響を及ぼし始めている部分もあります。例えば、感染者数の増加に伴い、ホテルなどで大人数での宴会のキャンセルが増えているとの指摘があります。

これまでの感染の「波」におけるパターンに従えば、第七波の感染者数は遠からず減少に転じるとみられており、その場合、個人消費が腰折れするリスクは小さいと考えられますが、何分、コロナの先行きに関する不確実性は高いので、引き続き注意が

必要です。

次に、輸出・生産については、供給制約の影響が和らぐ下で持ち直していると判断しています。具体的には、中国ロックダウンの影響が和らいでいることが幅広い業種にプラスの影響を与えています。これまでは、海

外経済が総じて力強く回復し、製品を作れば売れるという状況であるにもかかわらず、半導体やその他の部品不足といった供給制約のため作りたくても作れないという状況がありました。最近ではそうした供給制約が緩和される下で、多くの企業で生産水準を引き上げているほか、企業によっては休日稼働なども含めたフル生産に舵を切っているケースもあります。

もともと、先行きについては、半導体や各種部品が今後とも安

定的に供給されるかについて不確実性が高いのも事実です。中国がゼロコロナ政策を続ける下で、上海などで再びロックダウンが起こるリスクは否定できません。当地の製造業では、部品調達ルートが多様化に努めており、仮にロックダウンが再び起こったとしても、生産ラインへの影響は前回のロックダウンよりは小さくなることが期待できます。とはいえ、供給制約の先行きは重要なリスク要因です。

以上述べてきました通り、当地経済の行方は予断を許さないものがありますが、日本銀行広島支店としましては今後とも県内各界の皆様と密接なコミュニケーションをとりながら、経済情勢の確な把握に努めてまいります。引き続きよろしくご